

第2章 人口の動向

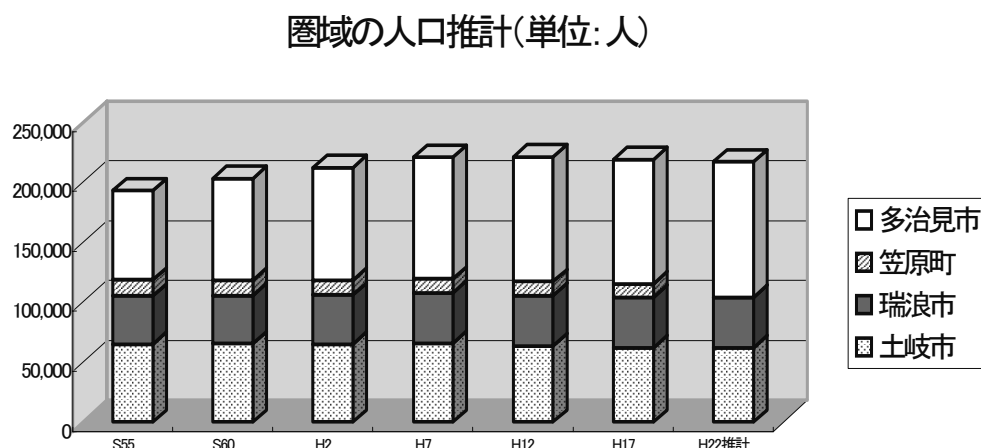
(1) 人口動態

当圏域の平成 17 年 10 月 1 日現在の人口（平成 17 年国勢調査数値）は、219,043 人で平成 12 年に比べ 2,278 人減少しています。これは、全国的な傾向である出生率の低下に加え、多治見市において転入者が大幅に減少したことが主な要因です。

当圏域では平成 13 年度をピークに減少しはじめ、現在もその傾向は続いています。東濃研究学園都市構想を進める中で、土岐市のプラズマ・リサーチパークにおいて宅地造成が行われ、現在住宅建設が進んでいます。

これらの要因を加味し、目標年次（平成 22 年）の圏域内の人口を 21.7 万人程度と推計しました。（図 1）

図 1



(2) 少子・高齢化の状況

当圏域の 65 歳以上の人口は、45,555 人（平成 17 年国勢調査数値）で、同全人口（219,043 人）の約 20.8%を占め、県の高齢化率（21.0%）を下回るものの、急激に高齢化が進んでいます。市別に見ると、多治見市が低い率で上昇しているのに対し、瑞浪市及び土岐市では県の高齢化率を上回っています。（図 2）

また、高齢者の人口で見ると、平成 7 年（31,519 人）の約 1.4 倍に増加しており、平成 22 年には 5 万人に達すると見込まれます。一方 15 歳未満の子どもの数は、昭和 50 年から減り続け、平成 17 年で 31,269 人（同数値）と、当初推計より 6 千人余り減少しています。前期計画では宅地造成により 15 歳未満人口は増えるものと推計していましたが、今後も減少傾向は続くものと推測されます。（図 3）